

2017. 6. 25

心をあわせる教会の祈り  
(使徒の働き 12:1~19)

神は

愛でおられる

その方が

御子をこの世に遣わされたのは

この世を愛するためであった(ヨハネ 3:16)

しかし、

この世は罪悪によって死ぬようになった

御子はこの世を救うために直接、十字架を負われた(I コリント 1:18)

そして、

その方はこの世に神の御名を知らせたが、それは

イエスの名に膝をかがめさせ、

神に出て行かせるためであった(ピリピ 2:10~11)

イエスの名を受け入れる者に(ヨハネ 1:12)

神の子としての特権をもたせ、

イエスの名によっていつでも何でも

神に求めさせるためであった(ヨハネ 15:7)

この世にさまざまな神々がいたとしても

神ではないために、人を生かすことができない

御言葉が肉体となってこの世に来た真理である

イエスは自分の民を救う

まことの神でおられる(ヨハネ 14:13~14)

○ 教会は全身全霊を尽くして祈り、

神を頼らなければならない

私たちの神は救い主でおられる

○ 教会が信仰を失わないで

イエスの名を頼ってこそ、

神は栄光を受けられる

○ 神でおられるイエスを信じる者には

今も超自然的な現象が伴う

これを信じてこそまことの信仰である

※ 教会はともに熱心に祈り、

牧師は忍耐と殉教する心もち、それによって

心を合わせなければならない 祈り、祈ろう